



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年5月26日(日)
春の合同剪定会に参加しました 編

今年も能代バイパス黒松友の会*の春の剪定会初日に参加しました。昨年春は安藤大将先生ほか3人が研究所から参加して下さい、NWの松の西隣のオーナー不在の黒松も剪定させていただきましたが(令和5年6月17日の活動レポート参照)、今回は2人でNWの松に専念。

これまでになく新芽が多数密集していて、これでいいのかなあと不安な気持ちでハサミを動かしていたところ、指導員の方に丁寧に教えていただきました。毎回異なる黒松の様相に悩みながらも、14時過ぎには作業を終えることができました。

徒長枝の長さはまちまちでしたが、剪定量は少なく、土のう袋1.5個分にとどまりました。昨年秋に心配されたライムグリーン色への変色対策として油粕10粒が配布され、根元を囲うように撒いてきました。これからたくさんの日差しを浴びてどんどん光合成をする中で、肥料が効いて暑さにもマツクイムシにも負けずに元気になってほしいと思います。

春の剪定会で生じた枝葉は、木高研で自然乾燥させ、市民参加の製炭体験会を秋に開催したいと考えています。どの位の炭素が固定できるのか、黒松剪定と炭焼きがどれくらい温暖化対策に貢献できるのか、多くの皆さんと体験、考える場になればと思います。

強い日差しの中での作業、皆さまお疲れ様でした。現場をまわって丁寧に指導くださいました講師の皆さま、ご準備・サポート下さいました事務局の皆さま、お世話になりました。

文: 渡辺 千明

*能代バイパス黒松友の会紹介 URL:

https://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/douro/noshirokokudou_douro/vsp/kuromatu/main.html



お天気に恵まれ、たくさんの参加者がいました。澤畑さんや勝長さん、長崎さんは黒松オーナーとなられていました。ご異動後にもお会いできるのは嬉しいです。



今回は上下分担して二人で剪定しました(上)。長さがまちまちの新芽が密集していましたが(中)、剪定量はさほど多くはありませんでした(下)。



剪定会で発生した剪定枝入りどのう袋は研究所に運んでいただきました。雨よけをしながら秋まで自然乾燥し、その後、製炭体験会を開催したいと考えています。